

お仏壇には“生きる秘訣”がいっぱい

仏教大好き職人がお届けする

まごころ南無レター

18号

2025年9月発行

夏休みに、長女と似島にある「ユーハイム似島歓迎交流センター」へ行ってきました。ここの海水プールは、ウォータースライダーが大きくて、地下からくみ上げた水はとっても綺麗！食堂・日帰り温泉・宿泊棟もあるので、フェリーで行くとちょっとした旅行気分になりますよ。小学2年の長女が、父親とお出かけするのもそろそろ終わり！？振り返ると、今が宝のような時間なのかも～ フェリーの上で安芸小富士をバックに⇒



ホットクない！シネマ情報局！



「国宝」ご覧になりましたか？

僕は学生の頃に歌舞伎をやっていたので、とても興味深く鑑賞することが出来ました。きっと今年の日本アカデミー賞を総なめですね！今回は「感想」「師匠との思い出」「屋号への想い」などをお伝えしていきます！



やまがた
代表の山縣
(あだ名はヤマケン)



喜久雄(吉沢亮)



俊介(横浜流星)

【あらすじ】 同い年の男の子二人が、歌舞伎役者へ成長していく物語。主人公は任侠の門に生まれながら、女形としての才能を見出され、歌舞伎役者の家に引取られた喜久雄。彼はやがて、その家の御曹司である俊介と切磋琢磨し芸に青春を捧げていきます。数奇な運命と波乱万丈な人生、そして歌舞伎の裏側や美しい演技と時間を忘れるほど圧巻のストーリー。



万菊(田中泂)



俊介の母(寺島しのぶ)

ヤマケンが号泣！

若かりし二人が、父でもある師匠(渡辺謙)から厳しい稽古をつけてもらうシーン。まさしくあれは「車曳」という演目で、僕たちもイヤと言うほど練習した場面でした。義太夫の「おおでをひろげ～」が聞こえた瞬間、ブワーっとあの頃の思い出がフラッシュバックして、思わず涙が…懐かしいよりも押さえていた記憶が引っ張り出されたそんな感覚。映画に比べて恥ずかしいほどの練習量ですが、何度も何度も叱られて注意された場面なので感極まっていました。

カワイイ師匠！？

僕たちの師匠は、ご年配の日本舞踊の先生でした。稽古は厳しくも、普段は面食いのカワイイ女性。男前の役者さんが大好きで、まだ無名の片岡愛之助さんを可愛がっておられました。愛之助さんは藤原紀香さんとは結婚されましたが…まがいがなく師匠は、あの世でグチってると思います(笑)引退後しばらくして、先輩からのメールで訃報を知った時は、電車の中で人目をはばからず涙したのを覚えています。あれほど寂しい感情になったのはこれまでで一番です。映画では万菊という人間国宝の歌舞伎役者が、主人公たちの人生に大きくかかわりますが、僕にとってその存在が師匠でした。ちなみに映画での田中泂さんの妖艶で不気味すぎる演技は必見です！

◆お仏壇の修理・掃除・洗浄・塗替え・買換え・移動・保管・処分 ◆お仏具・お数珠・寺院関連・おみこし・掛軸などの修復



お知合いでお仏壇のことでお困りの方がいらっしゃればご紹介ください！

◆広島県全域対応 ◆出張お見積り無料

仏壇 音羽屋 検索

広島市中区舟入南3丁目13-1 FAX 082-942-0526

〈お問合せ〉受付／午前8:00～午後7:00 TEL 082-231-3721



音羽屋

今回の「南無レター」はいかがでしたか？皆様のご意見・ご感想をどしどしお寄せください。ご連絡用LINEからメッセージを頂けると嬉しいですよ！
こちらからどうぞ⇒



「音羽屋」の由来

僕は、歌舞伎とのご縁で「伝統」に興味を持ちました。また、舞台で使う道具を自分たちで直していたこともあり、伝統に関係する手仕事をしたいと思い、この仕事を習い始めました。そして、2010年6月に開業。当時、妻からの「好きな歌舞伎に関連した名前の方が、親しみが湧いていいんじゃない」という助言から「音羽屋」となりました。

ヤマケン、屋号をどうして音羽屋という名前にしたのか？



松竹芸能さんにカツラと衣装をお借りした卒業公演「切られ与三」立っているのがヤマケン

そもそも音羽屋とは？

映画に出演している寺島しのぶさんが生まれた名門の屋号。七代目尾上菊五郎(父)、富司純子(母)、八代目尾上菊五郎(弟)という役者一家。ヤマケン、八代目と同世代でもあり、演技のビデオをよく見て稽古していたので、伝統にあやかっこの屋号にしました。



若かりし頃の音羽屋一家(寺島家)

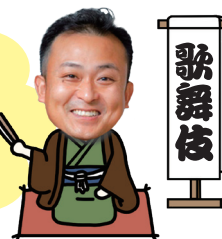
屋号への想い

映画の軸となるのは「血縁」と「芸」でした。大事な「芸」を、「血縁」で代々受け継いでいく歌舞伎のように、お仏壇を代々受け継いでいくことで、ご先祖からの「仏縁」と手を合わせるという「習慣」を繋いでいって欲しい。屋号にはそんな想いも込めています。

ご先祖からの「宝」

映画を見終わってから、あなたにとって「宝」とは何なのか？と問いかけてられているような気がしました。仏教には「明珠在掌(みょうじゅじやたなごころにあり)」という禅の言葉があり、これは「素晴らしい宝物は、すでにあなたの手のなかにある」そして、「正しい判断は自分で出来る」という2つの意味があるそうです。外に求めずとも、生き方の中心となる宝の様なモノが自分の中にあるんですね。主人公の喜久雄は「芸」に出会い、任侠の父親から受け継いだ「度胸」という宝によって、大勢の人々の支えの中で人間国宝になりました。自分の中にあるけれど、自分一人では手に入らないのが「宝」なのかもしれません。僕にとっては歌舞伎とのご縁と祖母から受け継いだ信仰心が「宝」です。宝を見つけるためには、人と関わりながらも、自分を見つめ直す時間が重要になります。お仏壇で手を合わせることは、己を見つめ直す時間。そして、ご先祖から繋がる自分の宝に気が付ける場所。これからも、天国の師匠とばあちゃんに見守ってもらいながら、お仏壇を通してお客様の大切な時間と場所を繋いでいけるように、まだまだ精進を続けていきます。

ととのいました！歌舞伎とかけて、暗い夜道ととく、そのころは？どちらも伝統(電灯)があるでしょう！



歌舞伎

余談ですが…

3つのご利益



そもそも音羽屋は、清水寺(京都)にある「音羽の滝」が由来。ここにある三本の滝は、長寿・学問・縁結びのご利益があるとされています。音羽屋でお直したお仏壇にもご利益が！

余談ですが…

探し物はなんですか？



音羽の滝には、探し物が必ず見つかるというおまじないがあります。「清水や音羽の滝は尽くるとも、失せたる〇〇の出ぬことはなし」この「〇〇」に探し物の名前を入れて三回唱えたと出てくるそうですよ！